

第Ⅲ期 第5回 国立天文台科学戦略委員会議事抄録

○日時：2023年12月27日（水） 13時00分～16時20分

○場所：国立天文台応接室、Zoom

○出席者：

（台外）今田晋亮委員（Zoom）、大朝由美子委員（Zoom）、河野孝太郎委員（Zoom）、
高橋慶太郎委員（Zoom）、田中雅臣委員（副委員長・Zoom）、戸谷友則委員（Zoom）、
村山斉委員（Zoom）、渡邊誠一郎委員（Zoom）

（台内）井口聖委員（Zoom）、齋藤正雄委員、都丸隆行委員（Zoom）、
藤井友香委員（Zoom）、満田和久委員（委員長・Zoom）、本原顕太郎委員（Zoom）、
吉田道利委員（Zoom）

○欠席者：

なし

○陪席：

（台内）常田佐久台長（Zoom）、藤田常事務部長

1. 第3回議事抄録の承認

2023年7月25日に開催された第3回国立天文台科学戦略委員会議事抄録の確認があり、承認された。

2. 第4回議事抄録の確認

2023年10月16日に開催された第4回国立天文台科学戦略委員会議事抄録の確認を行い、今回の本委員会でも最終確認を行った上で承認することとなった。

3. 将来シンポジウムまとめ

3.1 国立天文台将来シンポジウム SOC 所感

2023年度国立天文台将来シンポジウムにおけるSOCからの所感について報告があった。SOCは業務量が多いため計画的に動く必要があること、またタウンミーティング等を頻繁に開くことが必要との意見があったことなどが紹介された。

（主な意見交換）

ー将来シンポジウムのWEBにngVLAがNAOJからの提案と掲載されている時期があり、外部へ誤解を招く表現のため確認したい。

ーWEBの掲載はすでに修正済みである。NAOJとしてngVLAを提案することが決まっているわけではない。

3.2 各委員からのコメントと所感(提案書へのコメントを含む)

提出のあった提案書へのコメントについて内容の紹介があった。

4. 各プロジェクトへのフィードバックについて

各提案者へのコメントの扱いについて検討し、コメントについてはあくまで参考として提案者へ提示することとなった。

5. 運営会議への報告に向けた議論

5.1 今後の将来計画検討の組織及びタイムラインについて

5.2 報告書の目次案

今後の将来計画検討の組織及びタイムライン等について説明があり、意見交換を行った。

(主な意見公開)

ー将来計画へ向けて専任の委員会を新たに設置するとあるが、この専任の委員会が設立された場合、本委員会は何を行うことになるのか。

ー2024 年度、本委員会では実施計画を議論する予定である。新たな委員会は独立しているが本委員会と重なる部分もある。運営会議委員は 2024 年 4 月から交代となるため、3 月中に設置の提案を行いたい。

ー3 月中に提案を行った場合、次期の運営会議委員に引き継ぐのは難しいと思われる。重要な決定については 4 月以降の次期運営会議になるのではないかな。

ー本委員会としては運営会議の諮問事項に答えるべきであり、そのためには 3 月中に提案を行う必要がある。専任の委員会の設置を決定するのは次期の運営会議委員もしくは国立天文台執行部である。

ーサイエンスロードマップのスケジュールについて、2024 年 6 月～9 月にヒアリングを行うとあるが、期間としては短いのではないかな。しっかりと議論を行い、ヒアリングの時間をとることが必要であると思われる。

ーまずは来年度のシンポジウムの位置づけをしっかりと定義し、スケジュールを再考したい。

ー来年度の前半でサイエンスロードマップの出口を固める必要があるのではないかな。

ー来年度の前半で、諮問事項にも含まれている実施計画の作り方について議論する予定である。

ーサイエンスロードマップの作成を国立天文台執行部に丸投げしているように見えてしまう。サイエンスロードマップについてどのような内容のものを作成するということがまだ決定していない段階で運営会議に新たな委員会の設置を提案するのはおかしいのではないかな。執行部はサイエンスロードマップではなく、次の段階である実施計画の際にでてくるべきであり、サイエンスロードマップは本委員会として作成するべきと考えている。

ー試行を行う以上はサイエンスロードマップの作成まで行うべきである。まずは実際に作成し、その過程で落としどころを考えていくのも重要ではないか。本委員会としては、サイエンスロードマップを作成し、その上で実施計画の提案をするべきである。今回の試行で見えてきたものを基にひな形を作るまでは可能と思われ、それをどのように改善できるのか、また実施計画との関係性などについて今回の題材を元にシミュレーションを行うのが良く、想定できる範囲でまずは本委員会で作成する作業を進めるべきである。

ー運営会議への報告をどのようにまとめるか、今後工夫が必要である。

ーサイエンスロードマップを作成する委員会を運営会議に提案するとした場合、少なくともサイエンスロードマップの枠組みなどを示すことが必要である。それが 3 月までに間に合わないようであれば 3 月の運営会議ではあくまで中間報告という位置づけにしてもよいのではないか。

ー新年度の報告でもよいが、本委員会としてしっかりまとめるべきである。

ーLOI の概ねのカテゴライズは見えてきており、不足しているのはタイムラインである。カテゴライズとタイムラインの両軸でまとめ、その上でどのようにサイエンスロードマップとするのかを考えればよいのではないか。年度内の残りの本委員会でまとめきれないのであれば、それまでの議論で出たイメージ像を示せばよいと思われる。執行部については、次の段階である実施計画から中心となるべきであり、その前段階で執行部の下に専任の委員会を置くのはよくない。もっと広い視点でサイエンスロードマップは作成するべきであり、やはり本委員会でやるものと考えている。

ー専任の別委員会を置くのではなく、より専門的な者を本委員会に招き入れヒアリングを行うのも効果的ではないか。重要なのはあくまで本委員会の下でやるべきということである。

ーまずは本委員会で 1 回は試行をやり、その後運営会議の判断に任せるという流れでもよいのではないか。もし運営会議に判断を任せるとなった場合はもっと具体的な案を作るべきである。3 月に間に合わないようであれば、4 月以降でもよいと思われる。まずは運営会議からの諮問事項に応えることが重要である。

ーサイエンスロードマップとは何か、また実施計画との切り分けをまずは本委員会で議論を行わないと先に進まないと思われる。

ーサイエンスロードマップの枠組みを作るまでは本委員会として行うこととしたい。

ー本委員会の任期は 2024 年 9 月 30 日までのため、その間にしっかりと検討を進めるべきである。

ーまずは何か形を作りながら進めていく流れでよいと思われる。

ーゴールから決めていくのではなく、まずは試行からやっていくべきである。

ー次回の本委員会までにサイエンスロードマップの案を出すこととしたい。

ーまずは機械的なものを先に示し、その上で次回の本委員会で議論するのではどうか。そこからどのように実施計画へつなげていくのか議論を行うべきである。

ー現段階ではサイエンスロードマップをどのように実施計画と関連させていくのかが見えてきていない状態である。国立天文台の実施計画は現状としてはどのようなになっているのか、本委員会に示してもらえると議論が進めやすいと思われる。本委員会としてはサイエンスロードマップを作成し、実施計画へのバトンタッチを行うことになるため、実施計画を作成するためにはどのようなサイエンスロードマップが必要になるのか、まずはそこを整理すべきである。

ー国立天文台としてどのように実施計画を作成していくのか本委員会で説明していただきたい。

ー実施計画策定の枠組み（原案）について国立天文台執行部が作成し、それをもとに本委員会で議論を行うのが良いと思われる。運営会議を通じて国立天文台執行部へ働き掛けを行いたい。

ー現状の委員会の進め方を変えない限り、なかなか本委員会として目標を達成できないと思われる。本委員会の委員としてまずはしっかり進めていくことを改めて確認する必要がある。

ー本委員会のやり方を変えていく必要があると思われる。開催頻度を増やすだけでなく、オンライン上で共同してデータを修正するなどし、その上で本委員会を開催し議論する方法も可能ではないか。

ー今回提案書の提出があった者に対して、改めてヒアリングをすることも想定されるのか。
ー今回はあくまで試行のため、次の提案へ向けての反省材料とすればよく何度もヒアリングを行うことは想定していない。今後実際に審査する場合には、ヒアリングについては専門的な者を加えることも考えられる。

ー試行の内容は運営会議への報告にとどめ、公表までは行わないという理解でよいのか。

ーあくまで試行の段階であり、公表まではすべきではないと思われる。

ーサイエンスロードマップの段階で絞り込みまで行うのか。例えば実際の予算規模の 2 倍程度まで通すのか、あるいは現実的なもののみを通すのか、方向性によって大きく変わってしまう。絞り込みを行わないのであれば何度もヒアリングを行う必要はないと思われる。

ー今回は試行であり、実際にどこまで絞り込みを行うことが可能かという観点の確認も含めた試行とすることでもよいのではないか。絞り込みの妥当性についてタウンミーティングなどで決めるのが良いと思われる。

ー絞り込みを行わないのか、反対にしっかりと絞り込みを行うのか、大枠の方針はある程度決めておくべきである。

ー絞り込みを全く行わないということはないのではないのか。

ー具体的に決める必要はないが、ある程度の方針の共通認識は必要である。

ー予算的な観点となるが、提案書については既存設備の利用計画や新規計画、組織の提案等が重要となってくる。そのあたりを確認しながら検討していくのがよいと思われる。

ー問題意識を本委員会の委員の中で共通認識として持つことが必要である。

- －分野別に分けて議論することも必要と思われる。
- －枠組みのひな形を作成し、委員に適宜追記していただくこととし次回の本委員会までに皆様から意見をいただきたい。3月末の運営会議にあわせて3月中旬に本委員会を追加で開催する方向で日程調整をおこないたい。
- －3月の運営会議で報告を行うべきかについては、今後相談していきたい。

以 上